2022年11-12月版

いんばぬま豆知識シリーズ - 漁業編 -

印旛沼で行われている漁業について

印旛沼の漁業の歴史

鮭、ギバチ、タナゴなどの在来種や、利根川から遡上してきた種など、かつて印旛沼には多種多様な魚介類が入り乱れていました。漁で生計を立てる方々も多く、豊富な魚種に対応するため約25種類もの漁具、漁法が用いられていました。

高度経済成長に対応するために印旛沼開発事業が行われ、印旛沼の魚種は様変わりしました。平成26年の調査では在来種25種、国内移入種(※)及び外来種15種が確認されています。

※国内には生息しているが、もともとその地域には生息しておらず、人為的に持ち込まれた種

現在印旛沼で採れる魚

フナ、コイ、モツゴ等が主要種となります。漁獲量の多くを占めるモツゴ(クチボソ)(左写真)は体長10cmほどのコイ科の淡水魚で、佃煮や甘露煮として食されています。

近年はブルーギルやチャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)などの**特定外来種**が在来種を捕食するなど問題となっています。

ブルーギル

チャネルキャットフィッシュ(アメリカナマズ)

写真出典：国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構/環境省 特定外来生物の解説

印旛沼漁業を取り巻く現状

近年はボサ網漁が主力であり、網を水中に沈め、魚がすみかにした頃に引き揚げる漁法が用いられています。しかし、印旛沼の漁獲量は平成15年に確認されたコイヘルペスウイルスを起因とする消費者の淡水魚離れから急激に減少しました。近年の漁獲量の統計は取られていませんが、漁業人口の減少なども相まって印旛沼の漁業は厳しい状況にあります。

漁業資源の保護

印旛沼漁業協同組合では漁業資源の保全対策として、**保護区**/**禁漁区の**設定、県や漁協による放流活動が行われています。

主な放流対象魚はウナギやフナ、ワカサギなどです。

保護区	漁期を制限している区域
禁漁区	漁を禁止している区域

(印旛沼漁業協同組合提供資料を基に作成：区域は目安です)

放流活動や保護活動で、漁業資源を守っているんだね。

水がささえる豊かな社会
独立行政法人
水資源機構
Japan Water Agency
独立行政法人水資源機構
千葉用水総合管理所
八千代市村上3139(大和田機場横)
(047)483-0722
千葉用水 検索